

intertek news

Vol.94

ISO関連季刊情報誌(年4回発行)

CONTENTS

01 規格改訂をきっかけに

02 特集 03 規格改訂を読み解く

～新任担当者のための5つの基本ポイントと3つの重要ポイント～

04 News & Topics

- ▶ IATF 16949およびIATFルール第6版のSIs・FAQsを更新
- ▶ 新:ISO/IEC 27001 審査員養成コンバージョンコースのご案内
- ▶ GX-ETS 排出量取引制度の登録確認機関に登録
- ▶ Information:FSSC 22000 Version 7 改訂のポイント

05 審査の現場から

- ▶ お客様紹介
(株式会社モルテン スポーツ事業本部)

06 連載よみもの

- ▶ 審査員リレーエッセイ
「今を生きるブラジル人からの学び」
(審査員 佐伯 貴志)
- ▶ 環境よみものーゆらぐ時代と、つなぐ力
「人を『育てる力』ーESG経営を支えるISOの価値」

07 お客様からのお便り

- ▶ 「地球に優しいエネルギー活用」
(株式会社コールド・エアー・プロダクツ)
- ▶ 「『よかった』と言ってもらえる医療・介護サービス」
(一般社団法人衛生文化協会 城西病院 予防医学部)

08 研修コースのご案内

- ▶ ちょっといっぶく
- ▶ 研修コース案内
- ▶ 受講生からのお便り
(株式会社遠藤製作所)

インターテック・サーティフィケーション株式会社

発行 大阪事務所

◆バックナンバーは、弊社ホームページにてご覧いただけます。

<https://ba.intertek-jpn.com/>

規格改訂をきっかけに

営業部 西日本エリア 大阪事務所／主任審査員 ^{みの ひでお} 美濃 英雄



2026年から2027年にかけて、ISOマネジメントシステム規格は重要な節目を迎えています。ISO 14001(環境マネジメントシステム)は2026年4月15日に改訂規格が発行され、ISO 9001(品質マネジメントシステム)についても、同年9月16日に改訂規格が発行されました。さらに、ISO 45001(労働安全衛生マネジメントシステム)も2027年に改訂が予定されており、企業のマネジメントに対する国際的な要求は今後も継続的に高まっていくことが見込まれます。

これらの規格改訂の背景には、気候変動対策をはじめとする環境規制の強化や、品質・安全に対する社会的要求の高度化があります。特に近年は、自社の活動だけでなく調達先や委託先を含めたサプライチェーン全体でのリスク管理や説明責任が、企業の信頼性や事業継続に大きな影響を与えているようになっています。

ISO認証はこうした要求への対応状況を第三者の立場から確認し、取引先や顧客に対して信頼性を示す有効な手段です。一方で、ISOは単なる対外的な証明にとどまらず、業務プロセスの整理や課題の明確化を通じて、経営改善に活用できる実践的な仕組みでもあります。日常業務とマネジメントシステムを結び付けることで、その効果は一層高まります。

「今回の規格改訂は、前回ほど大きな改訂ではない」と考えられている人も多いでしょう。そうした中、弊社主催の「規格改訂情報と企業交流会2026」が数カ月にわたり各地で開催され、私も担当エリアの関西回に参加する機会がありました。会場では、改訂内容だけでなく、自社のマネジメントシステムやリスク管理のあり方、移行審査への準備などについて、参加者の皆さんが熱心に意見交換されており、規格改訂に対する高い関心と積極的な取り組み姿勢に感銘を受けました。

私は営業担当としてお客様をはじめとするさまざまな組織の課題やご要望を伺う機会があり、同時に審査員として多くのお客様のマネジメントシステムに触れる機会もあります。その経験から感じるのは、今回の改訂は要求事項への対応にとどまらず、自社の仕組みを見直し、より実効性の高いマネジメントシステムへと発展させる好機であるということです。移行審査までの準備期間を活用して改訂要求事項への理解を深め、内部監査等を通じて運用状況を確認することは、経営課題やリスクへの対応力向上にもつながります。

また、2026年版への移行に向けた審査機会は限られているため、再認証審査を予定されているお客様は、そのタイミングで移行審査を実施いただくことで、効率的かつ円滑な規格移行につなげることができます。負担を抑えながら移行を進めるためにも、早めの対応をご検討いただければ幸いです。

インターテック・サーティフィケーションでは、規格改訂への円滑な対応と実務への定着を支援するため、各種トレーニングやセミナーを提供しております。引き続き、認証機関としての第三者の立場から、規格改訂を経営強化につなげていただくための支援を提供してまいります。

規格改訂

を読み解く

～ 新任担当者のための

5 つの基本ポイントと

3 つの重要ポイント～

インターテック・サーティフィケーション
認証部

本誌前号・前々号(91号・92号)の特集において、「ISO管理責任者の課題と育成」をお届けいたしました。規格改訂の時期に合わせて悩まれている新任担当者の方々もいらっしゃると思います。今回の特集では、新任担当者が改訂規格要求事項を効率よく理解していくためのポイントを紹介させていただきます。改訂規格の運用に向けて参考にしていただければ幸いです。

1

「5つ」の基本ポイント

一つ目「4.1 組織及びその状況の理解」は組織にとって有益な目標を設定するにあたり出発点となります。まず、組織全体が目指す姿として組織の目的を明確にします。「目的」は規格の英語では「Purpose(パーパス)」としており「組織の目的＝存在意義」を意図しております。例としては経営理念、ビジョン・ミッション等で示している組織が多いかもしれません。続いて、組織の目的の実現に向けてマネジメントシステムの運用目的を明確にします。組織の認証範囲活動において何を実現したいのかを示す文言として「マネジメントシステムの意図した結果・成果」と記載されております。これは事業環境・戦略等により変化していく内容かもしれませんが、例としては事業計画にあるキーワード等がこれにあたります。そして、組織の目的実現に向けマネジメントシステムの運用目的達成に向けた、組織の外部及び内部の課題を明確に整理します。この際に課題というと事業活動においてマイナス影響のみの内容を捉えがちですが、プラスに影響する内容も課題として特定することが大切です。

ISO 14001に続き、ISO 9001についても、認証組織様では規格改訂への対応準備が重要な課題となっています。本特集では、新任担当者がまず理解しておきたいマネジメントシステム規格要求事項のポイントを、「5つ」の基本ポイントと「3つ」の重要ポイントを通じて分かりやすく解説します。規格理解と運用の一助となれば幸いです。(編集部)

二つ目は「4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解」となります。ここでは組織に影響を及ぼす利害関係者、そしてそれらのニーズ・期待を明確に特定します。組織にとっての利害関係者としては例として、顧客、協力業者、組織の人々、監督官庁等があげられるでしょう。そしてニーズ・期待として、貴組織、市場マーケットへの要求、監督官庁等が定める法令や規制等があるでしょう。

三つ目は「6.1 リスク及び機会への取組み」から「6.2 目標及びそれを達成するための計画策定」となります。まずはリスク及び機会として、組織の外部及び内部の課題、利害関係者のニーズ及び期待についてプラス、マイナスに影響する内容を特定しましたが、何がリスクなのか、何が機会なのか、整理し特定するにあたり運用目的が基準となります。続いて、目標の設定においては、特定したリスク及び機会を考慮します。「リスク及び機会を考慮しながら」とは、機会としての「プラス」を活かしさらに伸ばしていこう、また、リスクとしての「マイナス」を踏まえ組織では取り入れないようにしよう、など設定の際の参考にすることです。このようにしながら一年間における達成すべく目標を設定していきます。

四つ目は「8.1 運用の計画及び管理」です。目標を達成するための具体的な実施事項等を含めた計画を策定した後はその実施事項等を運用、実践していきます。この運用管理では、実践していただくだけではなく、定めた方法により、評価、見直し、つまりは目標におけるPDCA(=Plan, Do, Check, Action)を管理していくことを要求しております。管理するにあたり、基準を明確にすることは大切であり、測定可能な目標、達成のための具体的な実施事項、評価方法等は重要です。

五つ目は「9.1 監視、測定、分析及び評価」です。ここでは目標の達成、具体的な実施事項の評価だけではなく、マネジメントシステムの意図した成果、運用目的が達成できたか、つまりはマネジメントシステムのパフォーマンス、そして有効性を評価することを要求しております。

パフォーマンスの評価対象とは、目標の達成、その具体的な実施事項に関連しており、認証範囲の事業活動におけるプロセス、そのプロセスの監視及び測定項目等となります。プロセスの監視測定項目とは目標達成に向けた具体的な実施事項であり、運用管理により常に見直しPDCAをしていくことで、マネジメントシステムのパフォーマンスの向上につなげていきます。

2

「3つ」の重要ポイント

一つ目は「9.2 内部監査」です。内部監査はマネジメントシステム全体をCheckする機能で、次のAction機能であるマネジメントレビュー、トップマネジメントへ報告し改善につなげる役割でもあります。そのため、マネジメントシステム通りに運用できているか、さらに有効に運用できているか、内部として監査する必要があり、公平性が求められます。監査の際に大切なのは、監査目的を明確にすることで課題を特定することをお勧めします。マネジメントシステム通りに運用できていない、有効に運用できていないことが特定された場合は、是正処置を行うことで再発防止、マネジメントシステムの仕組みを見直していきます。

二つ目は「9.3 マネジメントレビュー」です。マネジメントレビューは、組織のマネジメントシステムが有効に機能しているか、Check, Actionする機能であり、主役はトップマネジメントです。マネジメントシステムのPDCAの結果、運用各項目の活動結果をトップマネジメントに報告します。トップマネジメントはその活動全体を見渡し、マネジメントレビューの結果として、マネジメントシステムの仕組みの改善、マネジメントシステムの変更、今後の運用に向けた

資源の必要性に関する、意思決定、指示を行います。マネジメントシステムのパフォーマンス向上に向けた重要なプロセスです。

三つ目は「10.1 継続的改善」です。マネジメントレビューの結果、指示からの取り組みにより改善につなげます。これは認証範囲の活動、プロセス、さらには製品及びサービスすべてにおける改善を含み、マネジメントシステムの運用目的、やがては組織の目的＝存在意義の達成につながるよう運用します。継続的改善により、マネジメントシステムのPDCAに取り組むことで、組織は成長していくことにつながります。

3

さあ、運用、実践してみましょう！

運用実践にあたっては、組織のマニュアル、規程や手順書、運用フォーム、つまりはマネジメントシステム全体と、規格要求事項全体と照らし合わせながら確認することをお勧めします。5つの基本ポイントと3つの重要ポイントを柱として、他の要求事項との関連性を確認することで、全体の理解につながり、また理解の深みが増します。これらを実践するにあたって大切なことは、ISO担当者、管理責任者だけで運用するのではなく認証範囲活動における組織内全員参画を促すことです。組織全体でPDCAに取り組むことで継続的改善が進み、組織が成長していくことにつながるでしょう。

【お問い合わせ】

特集内容に関するご質問・ご不明な点等ございましたら、東京事務所 ISO認証部までお問い合わせください。
ISO認証部 Email: cert-scheme.japan@intertek.com

INFORMATION –セミナー情報–

ISO 9001:2026 関連の新設セミナーをご紹介します。

◆ ISO 9001:2026 新任担当者のための実践プレイブック セミナー《オンデマンド》

【概要】

当セミナーでは要求事項のポイントと円滑なISO業務継承のロードマップを説明させていただきます。組織内で初めてISOを担当する方や管理責任者を任される方にとって、効率よく規格要求事項のポイントを理解し、運用・実践できることを目的としております。また、改訂発行されたISO 9001品質マネジメントシステム改訂規格の要求事項の関連部分も概要解説させていただきます。

※各セミナー詳細・お申し込み等は、弊社ホームページをご参照ください。
https://ba.intertek-jpn.com/news/info-about-on-demand_20260716/

IATF 16949およびIATFルール第6版のSIs・FAQsを更新

IATF (International Automotive Task Force: 国際自動車産業特別委員会)は、公式サイトにおいて、IATF 16949:2016規格およびIATFルール第6版に関するSIs (Sanctioned Interpretations: 公式解釈)ならびにFAQs (Frequently Asked Questions: よくある質問)の最新情報を随時公開しています。

SIsおよびFAQsは、審査員だけでなく、認証取得組織、認証機関をはじめとするIATF 16949認証制度に関わるすべての関係者が参照し、順守すべき重要な文書です。なかでもSIsは、既存の規格やルールの要求事項に対する公式な解釈や変更を示すものであり、公表された内容は最新の要求事項として適用されます。そのため、認証取得組織や認証機関の皆さまには、規格本文やルール文書だけでなく、最新のSIsおよびFAQsの内容についても継続的にご確認くださいことが重要です。

また、先日公開された最新版には、認証の維持や審査対応に影響を及ぼす可能性のある内容が含まれています。認証制度に関わる皆さまにおかれましては、適用内容をご確認いただくことをお勧めします。

最新のSIsおよびFAQsは、IATF公式サイト (<https://www.iatfglobaloversight.org/>) から入手いただけます。

新: ISO/IEC 27001審査員養成コンバージョンコースのご案内

審査員コースに、IRCA認定ISO/IEC 27001:2022審査員養成コンバージョンコース(認定No.2543)が新たに加わりました。

本コースは、既に5日間のマネジメントシステム審査員研修コースを修了している方を対象とした、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の審査員養成コースです。通常5日間の研修内容を3日間に集約し、効率的にISO/IEC 27001審査員資格への拡大を目指す内容となっています。

また、本コースはIRCA認定コースとなっており、コース修了後に最終試験に合格することで、ISO/IEC 27001審査員補となるための資格要件の一部を満たすことができます。ISMS審査員としての知識・技能向上や資格拡大を目指す方は、この機会にぜひご活用ください。ご興味ございましたら、インターテックアカデミー&トレーニングまでお気軽にお問合せください。詳細は弊社ホームページをご覧ください。

GX-ETS 排出量取引制度の登録確認機関に登録

インターテック・サーティフィケーションは、このたびGX推進法に基づく排出量取引制度「GX-ETS」の登録確認機関として登録されました。GX-ETSは、2050年カーボンニュートラルの実現に向けたGX(グリーントランスフォーメーション)政策の一環として導入された排出量取引制度です。対象事業者には、温室効果ガス(GHG)排出量の算定・報告等が求められ、登録確認機関は、事業者が算定・報告する排出量について第三者の立場から確認し、その信頼性を担保する役割を担います。

弊社ではこれまで、ISO 14064やISO 14067に基づくGHG排出量およびCFP(カーボンフットプリント)の検証をはじめ、東京都・埼玉県の登録検証機関、GXリーグ登録検証機関として、企業の脱炭素化やサステナビリティ推進を支援してまいりました。今回の登録により、培ってきたGHG検証の専門性と第三者検証の経験を活かし、GX-ETS対象企業の排出量データの信頼性確保に取り組むとともに、企業のGX・脱炭素経営を支える第三者機関として、制度対応と排出量情報の信頼性向上に貢献してまいります。詳細は弊社ホームページをご参照ください。

INFORMATION

～規格関連情報～

FSSC 22000 Version 7 改訂のポイント

～食品安全文化の強化と持続可能性への対応、移行期間は2027年5月より開始～



FSSC財団は、2026年5月1日にFSSC 22000 Version 7(以下Ver. 7)を発表しました。Ver. 7では、GFSIベンチマーク要求事項2024への対応や、食品業界を取り巻くリスク・社会的要請を踏まえて改訂されました。食品安全マネジメントシステムの有効性をさらに高めることを目的としており、主な改訂点は以下のとおりです。

①前提条件プログラムに対する新しいISO 22002-Xシリーズの組み入れ

- ・ISO/TS 22002シリーズからISO 22002シリーズ(2025年版)へ移行。
- ・衛生管理、施設・建屋の維持管理、清掃・消毒などの要求事項を最新化。
- ・より実践的な衛生管理体制の構築を要求。

②食品安全文化(Food Safety Culture)の強化

- ・経営層の積極的な関与とリーダーシップを重視。
- ・教育・訓練だけでなく、従業員の意識向上やコミュニケーションの充実を要求。
- ・食品安全文化の評価と継続的改善を推進。

③フードディフェンス・食品偽装防止の強化

- ・意図的な異物混入や悪意ある行為への対策を再確認。
- ・食品偽装のリスクの評価を定期的実施し、必要に応じて管理表を更新。

- ・サプライチェーン全体でのリスク管理を強化。

④持続可能性への配慮

- ・製品・包装の設計段階から食品ロスや環境負荷の低減を考慮。
- ・SDGsや環境保全を意識した製品開発・改善を推進。

⑤食品チェーンカテゴリの見直し

- ・認証のカテゴリや適用範囲を整理し、審査の一貫性を向上。
- ・各業種に適した要求事項をより明確化。

* なお、Ver.7への移行期間は、2027年5月～2028年4月となります。

【お問い合わせ】

- ◇ FSSC 22000改訂に関するご質問・お問い合わせは以下までお願いいたします。

食品認証部 Email: jpn.ba.food@intertek.com

お客様紹介

株式会社モルテン スポーツ事業本部 様

(ISO 9001:2015認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

株式会社モルテン様は1958年に広島市で設立され、スポーツ用品、自動車部品、医療・福祉機器、マリン・産業用品の4事業を展開されています。社名の「molten(モルテン)」は「melt(溶ける)」を語源とし、「古いものから新しいものに脱皮する」という想いが込められているそうです。

同社は1999年にISO 9001認証を取得、2023年よりインターテックへ認証移行されました。今回ご紹介のスポーツ事業本部では、「運動用具の営業、設計、開発及び付帯サービス」を認証範囲として東京本社を含む5拠点で品質マネジメントシステムを運用されています。また、工業用品事業本部および社会基盤事業本部においても、グループ6法人14拠点でISO 9001およびISO 14001を認証取得・運用されており、事業領域を超えて継続的改善活動に取り組まれています。

このようなISOマネジメントシステムの活用事例を背景に、昨年開催されたインターテックフォーラムでは、技術開発統括部の藤井統括部長にご登壇いただき、「ISO運用事例紹介」をテーマにご講演いただきました。

また、2022年には、各事業の開発拠点を集約したテクニカルセンター[the Box]を開設されました。評価設備やシミュレーション設備、試作設備を集約し、事業横断的な技術交流と新たな価値創出を推進されています。

スポーツ事業本部では、「スポーツの報酬は感情だ」という考えのもと、ブランドステートメント「feel the emotion」を掲げ、人々



テクニカルセンター molten [the Box] (広島市西区)

の感情を動かす製品やサービスの創出に取り組まれています。その一環として、組み立て式サッカーボールを通じて子どもたちの教育を支援する「MY FOOTBALL



組み立て式サッカーボール
「MY FOOTBALL KIT」

KIT」、バスケットボールを通じて子供に働く体験の場を作る「Arch to Hoop」など、スポーツの価値を広げる活動もされています。また、主要4競技(バスケットボール、ハンドボール、サッカー、バレーボール)の国際競技連盟とのパートナーシップを基盤に、公式試合



サッカー用ホイッスル
「バルキーン」

球や競技運営機器などを世界へ提供されています。国際大会をはじめ多くの競技現場で同社製品が活用されており、サッカー用ホイッスル「バルキーン」は、FIFAワールドカップ2026をはじめとする国内外の主要大会で多くの審判員に採用されるなど高い信頼を得られています。

今回の審査では、スポーツ事業本部の製品開発プロセスと品質マネジメントシステムの運用状況について確認しました。市場分析やVOC (Voice of Customer) を活用した顧客ニーズの把握から、設計検証、販売後の改善活動まで、一貫した品質マネジメントの仕組みが構築されていました。企画・開発では、市場ニーズに基づく開発と新たな価値創出に向けた技術開発を両輪で推進されており、継続的改善を支える仕組みと挑戦を後押しする企業風土が同社の強みであると感じました。品質と技術を基盤に、新たな価値創造へのチャレンジが続けられるモルテン様の今後のさらなる発展と飛躍に期待します。



[the Box]内の評価施設 「the Court」

審査員リレーエッセイ ⑨②

From
愛知県丹羽郡
佐伯 貴志
(さえき たかし)

Profile
専門分野：ISO 9001・ISO 14001—食品・化学・繊維・製造業全般・建設・不動産
経歴：株式会社安田総合事務所、一般財団法人三重県環境保全事業団、インターテック審査員（現職）



審査員からのエッセイをお楽しみください。

「今を生きるブラジル人からの学び」

2018年から5年ほど、妻と共にブラジルで暮らし、日本人とブラジル人の思考の違いを実感しました。日本人は過去・現在・未来を繋げた「線の思考」であるため、計画性が高く、同じ失敗を繰り返さない強み（是正処置）がありますが、とすると頭の中が過去への後悔、未来への不安でいっぱいになり、「今」を生きていないことがあります。



一方、ブラジル人は「今」に全力投球する「点の思考」が強いため、計画性が弱く、その場しのぎの修正処置だけで毎日を生きている感じがしますが、「今」という瞬間を毎日楽しんで生きています。私にとって、「今」を大切にし、楽しむことの大切さを学べたことは大きな財産です。

連載 「ゆらぐ時代と、つなぐ力」 ④

環境よみもの

「人を『育てる力』— ESG経営を支えるISOの価値

船井 勲 Isao Funai

品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム主任審査員／IRCA認定 品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム主任講師

これまで「ゆらぐ時代と、つなぐ力」をテーマに、ISOが企業経営に果たす役割について述べてきました。今回は、企業価値を高める「人を育てる力」と、ESG経営を支えるISOの役割について考えます。

■ 社会の変化とISO 2015年版が示した価値創造

リーマンショック以降、企業経営の考え方は大量生産・大量消費を前提とした成長モデルから、社会課題を踏まえた価値創造へと転換が進み、ESG投資やSDGsへの対応が企業評価に影響を与える時代となりました。

その流れの中で改訂されたのが、ISO 14001:2015です。環境活動を単独で管理し環境負荷を低減するだけでなく、社会課題への対応を通じて企業価値を高めるという考え方です。

■ ISO 14001:2026とESG経営へのつながり

約10年が経過し、ISO 14001:2026が発行されました。その内容は新たな要求事項を大幅に追加するものではなく、旧版で示された考え方を、現在の社会環境に合わせてより明確化するものです。気候変動、生物多様性、資源循環、サプライチェーンなど、企業を取り

巻く課題が複雑化する中で、改めて2015年版が求めた「価値の創造」と「ESGに配慮した活動」の重要性が問われています。

以前、前執筆者の郷古氏が本誌vol.53（2016年7月号）、vol.55（2017年1月号）などで紹介されたESG投資、SDGs、SDGコンパスといった考え方は、企業が社会課題と向き合い、持続可能な成長を実現する方向性を示していました。10年を経た現在、読み返してみると、その考え方はISO 14001:2026が示す方向性と深くつながっていることが分かります。

■ ESG・SDGsを実現するISOの実践力

ESG投資やSDGsで企業に求められているのは、気候変動や資源問題、人材育成などの社会課題を自社の経営課題として捉え、具体的な行動へ落とし込み、継続的に改善することです。

ISOは、その実践を支える基盤です。目標を達成するためには、まず必要な力量を持った人材を育成し、教育訓練によって確実に業務を遂行できる状態をつくることが重要です。そして、その活動が有効であるかを内部監査で確認し、マネジメントレビューによって経営層が評価・判断し、次の改善へつなげていきます。

■ 仕事の精度を高める仕組みづくりと人材育成

本連載の第2回、第3回でも述べたように、ヒューマンエラーは人が関わる以上、完全になくすることはできません。重要なのは、個人を責めるのではなく、発生した事象を組織の学びとして活用することであり、その中核となるのが是正処置です（第2回、第3回参照）。

業務精度を高めるためには、SOP（標準作業手順書）の作り込みと実践的な教育訓練が欠かせません。SOPは単なる手順書ではなく、経験者の判断や注意点を反映し、誰が実施しても一定の品質を確保できる仕組みです。教育も知識を伝えるだけではなく、実際に作業を確実に遂行できる力量を身に付けることが重要です。

ISOは、「真の原因を追究すること」「仕事の精度を高めること」「人を育てること」を通じて、ESG経営を実践し、企業価値を高めるための経営のツールです。社会課題への対応と持続的成長が求められる時代において、ISOは経営と現場、人と社会、そして現在と未来をつなぐ羅針盤であり続けると考えています。



お客様
からの
お便り

地球に優しいエネルギー活用

株式会社コールド・エアー・プロダクツ (ISO 9001:2015、ISO 14001:2015 認証登録)

業務部 飯塚 健二

No.01
Letter



施設全景（大阪府高石市）

株式会社コールド・エアー・プロダクツは、液化酸素、液化窒素、液化アルゴンの製造および販売を目的として1975年に設立されました。当社は、大阪ガスが輸入する液化天然ガス(LNG)の冷熱を利用して空気を冷却したのち、沸点差を利用して、高純度の液化酸素・液化窒素・液化アルゴンを取り出しています。創業50周年にあたる2025年



製造フロー

1月には、ローリー出荷150万台を達成しました。

ISO 9001:1994は1997年に、ISO 14001:1996は2002年に認証取得し、現在に至っており、IMS活動と事業運営を一体化することで、効率的に業務を進めるよう工夫しています。

今後も、市場競争力のある高品質の製品を安定供給するとともに、環境に与える主要な影響の改善や安全職場・健康職場の構築に継続的に取り組み、お客さま・株主さま・社会・従業員などの全てのステークホルダーの価値向上に努めてまいります。

▶ <https://www.cold-air.co.jp/>

「よかった」と言ってもらえる医療・介護サービス

一般社団法人衛生文化協会 城西病院 予防医学部 (ISO 9001:2015、ISO 27001:2022 認証登録)

予防医学部部長 小石川 知史

No.02
Letter



病院外観（東京都杉並区）

当院健診部門は27年前に、健診医療機関第1号としてISO 9001の認証を取得し、続いて2006年にはISO/IEC 27001の認証を取得しました。そして、2021年に新たな目線からの審査を目指し、他の審査機関からインターテックさんに変更しました。認証範囲は、当院健診部門の予防医学部と築地健診プラザ[下記健診サービスの設計・開発・提供:1) 定期健診、2) 生活習慣病予防健診、3) 特殊健診(有機溶剤、鉛、電離放射線、特定化学物質、じん肺、騒音、VDT、赤・紫外線、高気圧)、4) 人間ドック]になっています。

当院の理念を実現するためには、社員一人ひとりが業務

を遂行するうえでの明確なルールや基準が必要です。例えば、ミスが発生した際に、その場の対応だけで終わらせてしまうと、同じミスを繰り返す可能性があります。しかし、原因を分析し、再発防止策を検討・実施することで、同様のミスや類似事例の発生を防ぐことができます。このような改善活動を継続的に積み重ねることが、顧客からの信頼獲得につながると考えています。QMSやISMSは、こうした取り組みを組織的かつ継続的に実践するための重要なツールです。

小石川氏



スタッフの皆さん

▶ <https://www.johsai-hp.or.jp/>



さが和らぎ、過ごしやすい季節となりました。スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋、そしてなんといっても食欲の秋です。「食欲の秋」と呼ばれる理由には諸説ありますが、夏の暑さで低下していた食欲が回復することに加え、涼しくなって活動しやすくなることや、冬に備えて体がエネルギーを蓄えようとするなどが関係しているといわれています。さらに秋は、栗や新米、きのこ、秋刀魚、果物など旬を迎える食材が豊富になる季節です。季節の変化と食の楽しみが重なり、秋になると「おいしいものを食べたい」と感じやすくなるのだそうです。

そんな秋の味覚の代表選手のひとつが栗です。栗ご飯、栗きんとん、甘露煮、モンブランなど、お料理から和・洋菓子までさまざまな形で楽しんでいます。ところで、栗は果物？それとも野菜でしょうか？植物学的には「果実」に分類され、私たちが普段「栗の実」として食べている部分は種子にあたり、イガは皮、鬼皮が果肉になるそうです。農林水産省では果樹として扱われる一方、食品成分表ではアーモンドやクルミと同じ「種実類」に分類されています。逆に、果物の代表のようなイチゴやスイカ、メロンは農業上「果実の野菜」とされています。ちなみに栗は英語で「Chestnut(チェストナット)」で、名前に含まれる「nut」は木の実を意味します。ナッツ類は一般に栄養価が高いことで知られていますが、中でも栗は炭水化物やビタミンCを比較的多く含む少し変わった存在で、栄養面でも

優秀です。食物繊維やカリウムも含み、栄養価の高さから「スーパーフード」と紹介されることもあります。縄文時代の遺跡からも発見され、古くから貴重なエネルギー源として活用されていたと考えられています。

また、栗は縁起物としても親しまれてきました。保存食として用いられた干し栗は「勝栗(かちぐり)」と呼ばれ、もともとは栗を搗(つ)いて作る「搗ち栗(かちぐり)」が由来です。「かち」が「勝ち」に通じることから、勝利を願う縁起物とされ、結婚式の三々九度にもつながるといわれる「三献の儀(さんこんのぎ)」にも用いられ、戦国時代には織田信長や武田信玄も戦勝を願って持参したという説があります。さらに栗の木は、腐りにくく丈夫なことから、かつては線路の枕木にも使われていたそうです。秋の味覚の栗が、昔の鉄道を支える役割までしていたとは驚きです。

栗つながりで、十五夜の約1か月後に訪れる十三夜は「栗名月」と呼ばれます。栗や豆を供えて収穫に感謝する風習として知られ、中国から伝わった十五夜に対し、十三夜は日本独自のお月見文化ともいわれています。秋は空気が澄み、月明かりが美しく感じられる季節でもあります。「天高く馬肥ゆる秋」という言葉どおり、空が高く澄み、実り豊かなこの季節、いろいろな栗のお料理やお菓子などを味わいながら、夜空に浮かぶ栗名月にも思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。(参考・出典:農林水産省、国立天文台、日本気象協会、栗全書等の公開情報)

研修コースのご案内

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO 9001 (5日間) / ISO 14001 (3日間) / ISO 45001 (3日間)
※ISO 14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。
詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

開催地 東京(弊社東京事務所)

日程 ● ISO 9001 ... 10/ 2(金) ~ 6(火)
● ISO 14001 ... 11/26(木) ~ 28(土)
● ISO 45001 ... 12/10(木) ~ 12(土)

NEW ISO/IEC 27001:2022 審査員養成コンバージョンコース

5日間のマネジメントシステム審査員研修コースを修了された方を対象とした、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の審査員養成コースです。

開催地 東京(弊社東京事務所) **日程** 12/12(土) ~ 14(月)

オンラインセミナー

オンラインセミナー好評開催中！
各規格(ISO 9001/ISO 14001/ISO 45001/ISO 27001/ISO 22000等)の内部監査員養成コースを開催しています。また、講師派遣型セミナーもオンライン対応可能です。

*弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からの
お便り

ISO 14001:2026 移行対応セミナーを受講して

ISO 14001:2026 移行対応セミナー(2026年6月東京会場)受講

株式会社遠藤製作所 品質保証部 マネージャー 松本 鉄平

弊社は1961年創業、精密金属加工を得意とする会社です。産業用印刷機器、半導体装置、環境分析装置、産業用ロボットなど幅広い分野の製品に携わり、グループ全体で山形県内4工場、ベトナム2工場体制で、常にお客様の期待に応えられるよう活動しています。

2003年にISO 9001、14001を取得、「経営、実務とISOを融合し顧客満足度をさらに高める」をテーマに取り組んでおります。今回、

ISO 14001:2026への移行に伴い本講座を受講いたしました。変更点を中心に、その背景や意図、審査員の視点などご説明いただきました。特に「4.組織の状況」と「6.計画」の進め方では新たな気づきを得ることができ、移行対応に向け、より具体的なイメージを持つことができました。ここで得た知識や情報を持続可能なMSへ反映させていきたいと思います。ISO 9001:2026移行の際もお世話になります。

インターテック・サーティフィケーション株式会社 <https://ba.intertek-jpn.com/>

東京事務所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル4F

E-mail: info.ba-japan@intertek.com

大阪事務所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F

E-mail: info.ba-osaka@intertek.com